

令和2年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-2号)

農林総合研究センター
令和2年5月28日調査

気象経過

<平年対比>

【平均気温】

- ・5月第4半旬は、金沢は並、輪島は高くなった(平年差:金沢+0.1℃、輪島+0.8℃)。
- ・5月第5半旬は、金沢はかなり高く、輪島は高くなった(平年差:金沢+1.6℃、輪島+0.9℃)。

【日照時間】

- ・5月第4半旬は、金沢、輪島ともかなり少なくなった(平年比:金沢27%、輪島32%)。
- ・5月第5半旬は、金沢は並、輪島はかなり少なくなった(平年比:金沢105%、輪島76%)。

【降水量】

- ・5月第4半旬は、金沢はかなり少なく、輪島は少なかった(平年比:金沢71%、輪島90%)。
- ・5月第5半旬は、金沢、輪島ともかなり少なくなった(平年比:金沢20%、輪島34%)。

【1ヶ月予報】

5月28日発表の1か月予報(5月30日~6月29日)では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3~4週目は、高い確率50%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 草丈は、コシヒカリは平年比82~131%(県平均105%:加賀:104%、能登:108%)、と平年と比べやや長く前年並。
ゆめみづほは、平年比87~115%(県平均:101%、加賀:100%、能登:104%)と平年並で前年と比べやや短い。
ひやくまん穀は、近年比89~116%(県平均:98%、加賀:92%、能登105%)と近年並で前年と比べやや短い。
2. 茎数は、コシヒカリは平年比61~167%(県平均:110%、加賀:108%、能登114%)と平年と比べ多く、前年と比べ少ない。
ゆめみづほは、平年比80~155%(県平均:104%、加賀:108%、能登:94%)と平年並で前年と比べ少ない。
ひやくまん穀は、近年比99~170%(県平均:94%、加賀:88%、能登:101%)と近年と比べやや少なく、前年と比べ少ない。
3. 葉齢は、コシヒカリは平年比-0.8葉~+0.8葉(県平均:+0.1葉、加賀:±0.0葉、能登:+0.3葉)、ゆめみづほは平年比-1.2葉~+0.3葉(県平均:-0.2葉、加賀:-0.3葉、能登:±0.0葉)、ひやくまん穀は、近年比-0.7葉~+1.0葉(県平均:+0.1葉、加賀:-0.1葉、能登:+0.3葉)となっている。
葉齢展開は、コシヒカリは平年に比べ1日程度早く、前年と比べ3日程度遅い。
ゆめみづほは平年と比べ1日程度早く、前年より4日程度遅い。
ひやくまん穀は近年並~1日早く、前年と比べ2~3日遅い。

㎡当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	142本	（平年比 110%	前年比 75%）	8.0	本/株
	加賀	147本	（平年比 108%	前年比 74%）	8.3	本/株
	能登	134本	（平年比 114%	前年比 78%）	7.5	本/株
ゆめみづほ	県平均	160本	（平年比 104%	前年比 67%）	8.9	本/株
	加賀	184本	（平年比 108%	前年比 66%）	10.5	本/株
	能登	112本	（平年比 94%	前年比 67%）	6.1	本/株
ひやくまん穀	県平均	92本	（近年比 94%	前年比 80%）	4.6	本/株
	加賀	97本	（近年比 88%	前年比 79%）	4.9	本/株
	能登	85本	（近年比 101%	前年比 81%）	4.3	本/株

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエによる食害が一部の地域で散見されている。

また、雑草地における斑点米カメムシ類の生息数は平年よりやや多くなっている。

当面の対策

1. **ひやくまん穀の分けつ発生を促進**するため、**茎数が目標穂数の7割（252本/㎡）に達するまで浅水管理を継続**する。
・ ただし、中干し開始までに田干しを1～2回行う。
2. **田植後1ヶ月を目途に中干しを開始**する。ただし、**茎数が目標穂数の7割を超えたら直ちに中干しを開始**する。

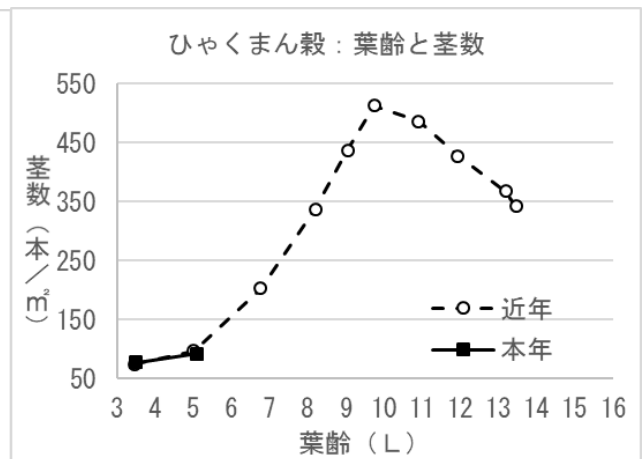
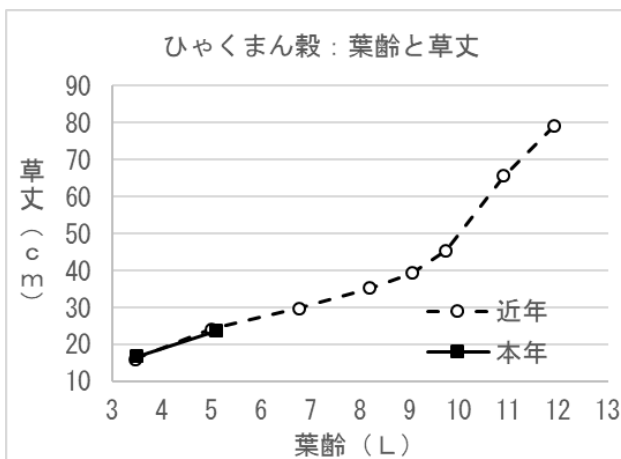
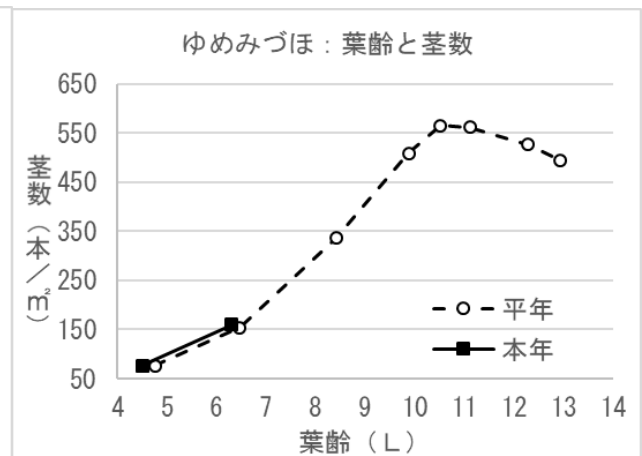
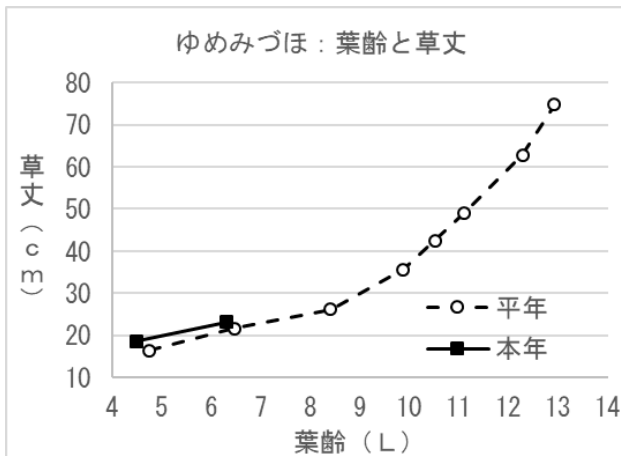
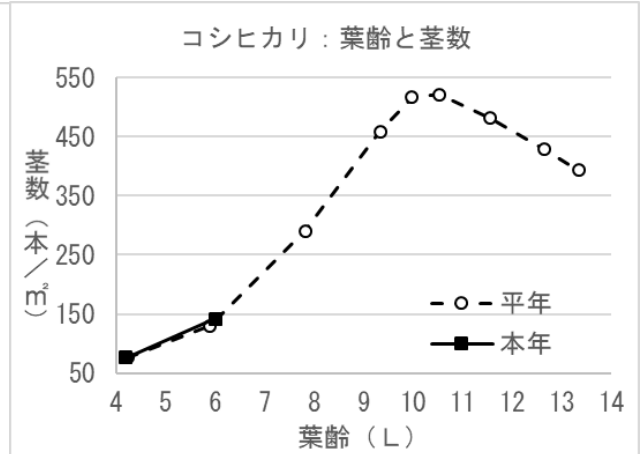
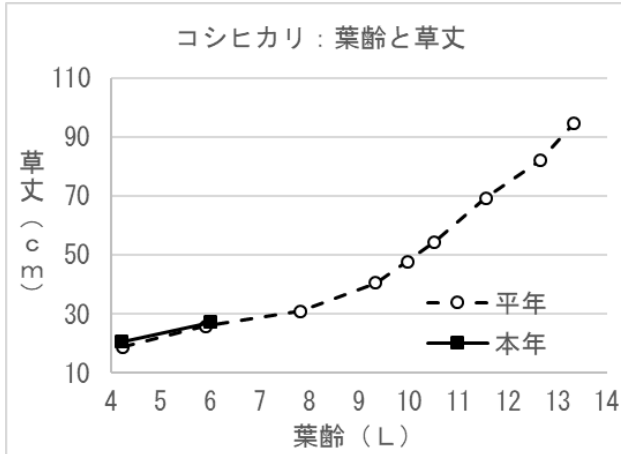
		ゆめみづほ	コシヒカリ	ひやくまん穀	備	考
目標穂数	㎡当たり	490	390	360		
中干し	㎡当たり	343	273	252		
開始茎数	株当たり	18～19	14～15	14	60株植の場合	

3. **中干しを確実に実施**するため、**溝切り**を行うこと。
4. 中干しの程度は田面に小さな亀裂が入る程度とし、ひび割れができれば適宜入水する。ただし、茎数過剰が見込まれる場合は、田面に幅1～2cm程度の亀裂が入るまで干す。
5. 用水をため池等に依存している地域では、集落や地域単位で限られた水源の計画的な利用に努める。なお、関係機関との連携を密にし、ため池の状態を継続的に把握する。
6. 本田に放置された補植苗は、本田のいもち病の伝染源となり早期多発を招くので、早急に取り除く。
7. いもち病の防除（箱施薬）をしていない場合は、いもち病の防除適期を逸しないように予防粒剤を必ず散布すること。散布時期の目安は田植時期にかかわらず下記のとおりである。
加賀平坦部：6月10～15日 加賀常発地：6月10日頃
能登平坦部：6月10～20日 能登常発地：6月10～15日
8. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、6月上旬に1株当たり1卵塊以上認められたら、直ちに防除を行なうこと。
9. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布すること。
10. **斑点米カメムシ類は、気温の上昇に伴い急激に増加しやすいので、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底すること。**
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意すること。

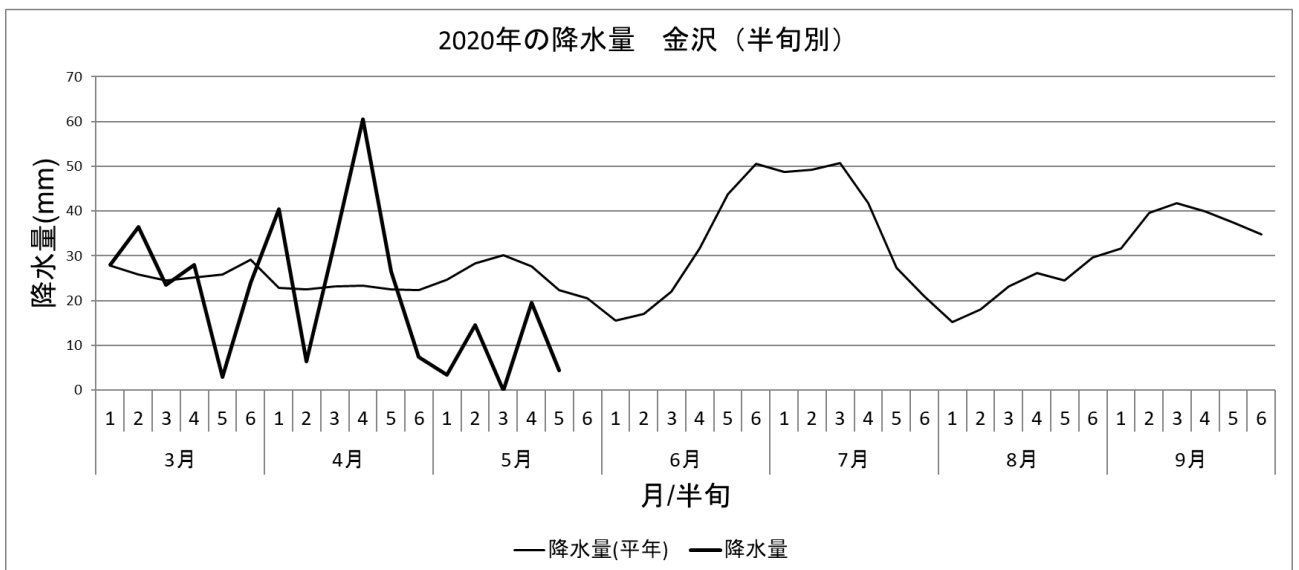
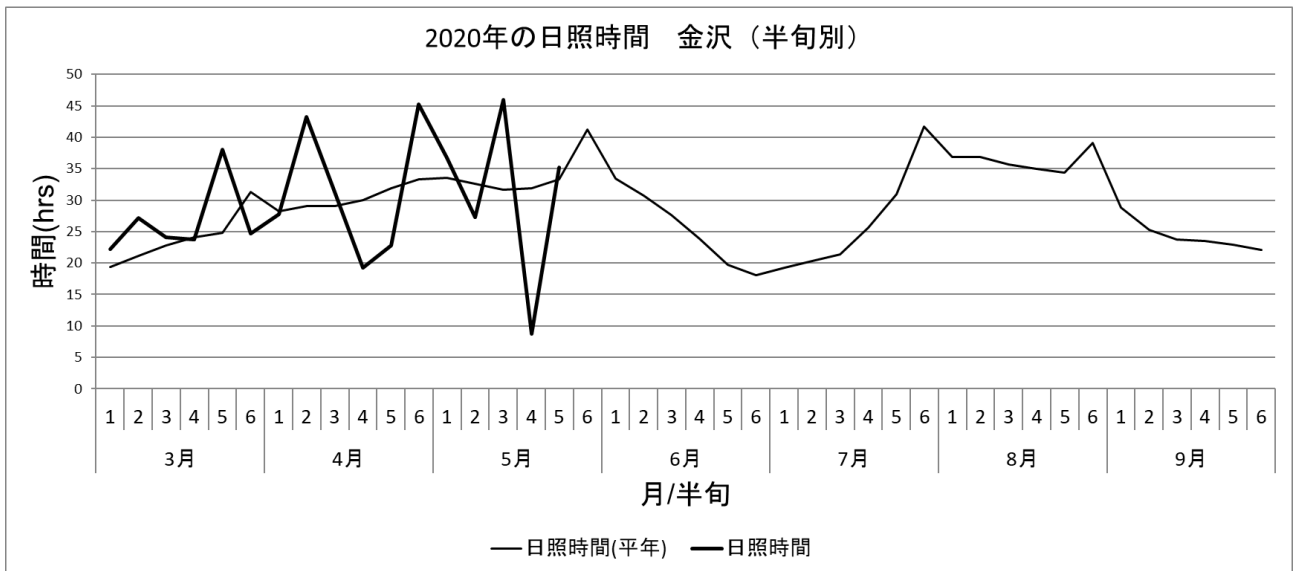
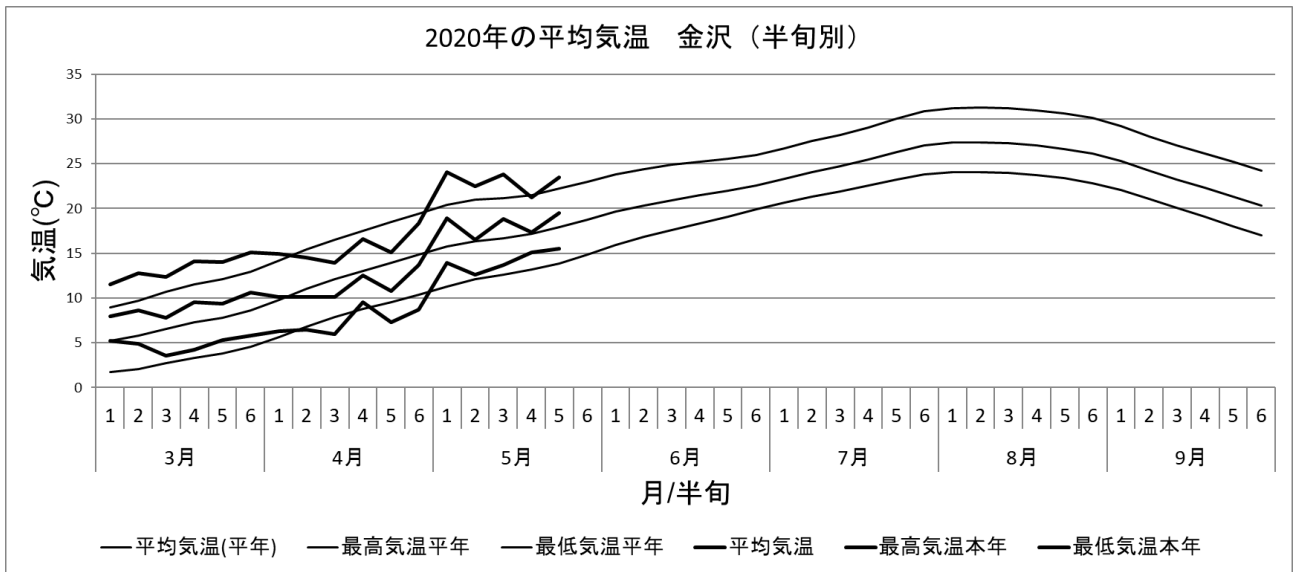
（次ページに続く）

<参考：葉齢の展開速度と草丈の伸長・茎数の増加について>

葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年（近年）と比較すると、草丈の伸長はコシヒカリ、ゆめみづほ、ひやくまん穀のいずれも平年並～やや長いものの葉齢展開に見合った生育進度となっている。茎数の増加についても、コシヒカリは平年と比べてやや多く、ゆめみづほは平年並、ひやくまん穀は近年と比べやや少ないものの、いずれの品種についても葉齢の展開速度に見合った生育進度となっている。



気象経過イメージ（金沢気象台）



気象経過イメージ (金沢気象台)

